

表現音読コンテストの開催趣旨

嵯山女学園大学外国語学部は、「地球市民」の育成を目指しています。世界の多様性を理解し、平和、環境、人権、貧困といった地球規模の課題解決に向けて、地球に生きる一人の人間として、日々考え行動できる人材を育みたいと考えています。

この理念に基づき、英語表現音読コンテストを開催いたします。

第2回 英語表現音読コンテスト 英語スピーチリスト

No.1 セヴァン・カリス＝スズキ (Severn Cullis-Suzuki) 1992年 カナダ出身の環境活動家

- ・リオデジャネイロ開催のEarth Summitにおけるスピーチ
- ・12歳で国際舞台に立ち、環境問題について子どもの立場から語る
- ・環境破壊の停止を訴え、資源を持つ側の無関心を批判

No.2 ネルソン・マンデラ (Nelson Mandela) 1994年 南アフリカ共和国大統領

- ・南アフリカ初の黒人大統領として就任
- ・「虹の国」として、黒人も白人も尊厳を持ち共に生きる未来を宣言
- ・「決して二度と抑圧を許さない」と強く誓う

No.3 エマ・ワトソン (Emma Watson) 2014年 イギリス出身の俳優

- ・国連「HeForSheキャンペーン」スピーチ
- ・フェミニズムを「男性嫌悪」とする誤解を正す
- ・自らの力を信じて動き出すことの必要性を強調

No.4 アン・ハサウェイ (Anne Hathaway) 2018年 アメリカ出身の俳優

- ・National Ally for Equality受賞スピーチ
- ・社会に根強く残る偏見を否定し、LGBTQの人々と共に立つ姿勢を示す
- ・愛が中心にあるとき、すべての人に扉が開かれる

No.5 RM 2018年 K-POPグループBTSのリーダー

- ・ユニセフのグローバルサポーターとして、世界の子どもや若者に向けて発信
- ・幼少期から現在に至るまでの葛藤や気付き
- ・ありのままの自分を大切にすることの意義

No.6 クリスティン・ウェンツ (Kristen Wenz) 2019年 アメリカ出身の人権活動家

- ・弟の養子縁組をきっかけに、出生証明書のない子どもの問題に気づく
- ・世界で10億人以上が法的に「存在しない」とされ、必要な支援が届かない
- ・共感と行動が変化を生むと呼びかけ

No.7 ミンジン・リー (Min Jin Lee) 2022年 韓国系アメリカ人作家

- ・Break the Silence Rallyで行ったスピーチ
- ・ヘイトクライムの急増による、日常生活における恐怖や自衛の実態
- ・差別や偏見に屈せず立ち向かい、自身の物語を語ることの意義

当日はイアン・マローニ先生の特別講演会を行います。

イアン・マローニ (Iain Maloney, Ph.D.) 嵯山女学園大学外国語学部 准教授
イギリスのスコットランド・アバディーン出身。2005年来日。日本での暮らしをつづった回顧録 *The Only Gaijin in the Village* や、明治時代に日本各地で灯台を築いた技師たちの歴史を描いた *The Japan Lights* をはじめ、これまでに9冊の文学作品を出版している。専門はトラウマと文学。University of Sunderland にて博士号取得。作家としてだけでなく、音楽家、ポッドキャスター、ジャーナリストとしても活動している。

